

5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース（約3.7km）

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

大山道の道標を兼ねた蚕霊供養塔のある神明社付近は、「柏尾通り大山道」と、戸塚・踊場・中田方面や葛野方面から来る「大山道」が合流する交通の要所で、中和田村役場などがあつた中和田村の中心地でした。夏、子どもたちで賑わう地蔵原の水辺から「柏尾通り大山道」を弥生台方面へ行くと、農村歌舞伎で知られる市川花十郎の生家成田屋（現在はマンション・グリーンリポーズナリタ）があり、また、かつて地域の人々の娯楽だった「旗競馬」が行われた横根稲荷があります。この辺りからは富士山を始めとした山並みを一望できます。芝原バス停の近くには、「大山道」道標と「柏尾通り大山道」の案内板があります。そこからさらに、春には桜が咲き乱れる相鉄いずみ野線弥生台駅へと続きます。

1 地蔵原の水辺



ここは、2つの人工池を持つ親水公園で、春は桜を見ながらお弁当を食べたり、夏には小さい子供達が水遊びをしたりと多くの人で賑わっています。また、川沿いを散策するのもとても良い場所です。電車が通るのがよく見えるので、子連れで電車を見るだけでも楽しい場所です。

2 神明社



祭神は天照皇大神です。勧請年代は不明ですが、須賀神社と同様、建暦2年（1212）、泉次郎親衛が館を築いた折、その鬼門除け守護神として当社を勧請したと伝えられています。昭和10年（1935）11月、氏子の寄付により社殿が修復されています。神明社の隣には、農家の経済を支えた養蚕にちなんだ蚕霊供養塔（横浜市登録文化財）があります。

3 庚申塔（神明社）



神明社の参道入口に庚申塔があります。庚申信仰は平安時代に道教の俗信から起り、仏教の青面金剛、帝釈天などの信仰と混交して成立したもので、庚申の夜はこれらの祭神を祀って徹夜でお祈りする風習がありました。区内の方で見られる庚申塔には道標や三猿の像が刻んであり、猿の表情はなかなかユーモラスです。

4 横根稲荷神社



横根稲荷神社は、和泉全域を氏子とし、また昔から「横根のいなり様」といわれて近郷住民や商人の信仰を集めてきました。さらに大山道に近いことから大山参りの人達も立ち寄り、旅の安全を祈願したといわれています。境内には巴御前が信濃に落ちて行く途中で化粧に用いたという「横根感念井戸」があります。

5 馬頭観世音塔（横根稲荷神社）



横根稲荷神社の回りでは、昭和12年（1937）頃まで「旗競馬」が催されていました。廻り馬場で、農耕馬や荷馬車の馬を走らせました。近郷近在から集まった老若男女の見物人は、見せ物小屋や露店をひやかし、見合いの場所にもなっていました。馬頭観世音塔は、高座郡、鎌倉郡の荷馬車運送組合が建てたものなど数基あり、競馬に出た馬も供養されているのでしょう。

6 富士塚跡（横根稲荷東側）



横根稲荷神社東側の場所は、標高約65m位の高台です。西を見れば遮るものはなく、富士山を中心に、右は大山、丹沢山塊、左に箱根連山が一望できるビューポイントです。ここにあつた「富士塚」は信仰の対象として、また、この塚の上にあつた航空灯台は名所として歌にまでなりましたが、いまは跡形もなく、バス停にその名を残すのみです。

7 柏尾通り大山道（和泉小学校入口交差点）



戸塚区柏尾町の不動坂から岡津町・和泉町・上飯田町を経て大山へ向かう大山道は、「柏尾通り大山道」と呼ばれ、大山参詣の道であるとともに、内陸部とを結ぶ「くらしの道」として賑わいました。「かまくらみち」と大山道の交差する「和泉小学校入口交差点」（芝原）にある庚申塔には、東西南北の道しるべが彫ってあります。

8 桜（弥生台駅）



相鉄いずみ野線弥生台駅のホーム横には、昭和51年の開業以降に植えられた約50本の桜が季節の彩りを添えています。桜は、長さおよそ200mのホームに平行した傾斜面に植えられており、毎年春には見事な花を咲かせます。

1 五霊社



県道の瀬谷・柏尾線を相模鉄道いずみ野線が高架で横断している高台に、この地域の鎮守さまである五霊社が祀られています。祭神は日本武尊一柱で永享3年（1431）に勧請されたといわれています。享和年間（1801～4）に社殿改修、文久元年（1861）に社殿を改築したと記された棟札が保存されています。現在の社は、昭和27年（1952）の火災後改築されたものです。

2 中丸家長屋門



明治時代中頃に建築された中丸家の長屋門は、平成13年度には、「横浜市認定歴史的建造物」に選ばれ、また、「中丸家長屋門とその周辺」が「横浜・人・まち・デザイン賞（まちなみ景観部門）」を受賞するなど泉区を代表する建築物です。

3 憩いのまほろば



川沿いの中丸家長屋門のたたずまいに河川の風景が融和するように、また、人々が憩えるように配慮して、あずまや・ベンチ等の休憩施設、車椅子利用者対応のトイレや広場も整備されています。阿久和川は平成5年の「まほろばの川づくりモデル事業」（国土交通省）に、全国に先駆けて認定され、整備されています。

4 観音寺



元和元年（1615）、阿久和村の領主であつた徳川家康の家臣、安藤治右衛門正珍が、先祖の冥福を祈るために創建したといわれています。宗派は曹洞宗で、旧鎌倉郡観音三十三札所の二十三番札所です。本尊の聖観世音菩薩立像は、行基作と伝えられ、33年に一度御開帳を行う秘仏です。また、釈迦殿には、スリランカから送られた仏舎利と涅槃像が安置されています。

6 長屋門・武相国境の道コース (約 5.7km)

～ 新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く ～

相鉄いずみ野線弥生台駅北口から坂を降りしばらく行くと、中丸家の長屋門があります。阿久和川沿いにある5つの「まほろば」は、人々の心に一時のやすらぎを与えてくれます。曹洞宗の古刹観音寺の前の橋を渡り、二俣川道の道標を兼ねた庚申塔の横を抜け、少し先の階段を登ると、緑園の街並みが目の前に開けます。池の谷と緑園の境の道を進むと、相模国と武蔵国の境の道「武相国境の道」に出ます。ここから、横浜市まちなみ景観賞を受賞した四季の径を通り、緑園須郷台公園・フェリス女学院大学などを経て、相鉄いずみ野線緑園都市駅に至ります。

5 神明社と大ヒノキ



むかし、神明谷戸といわれたこの地域の鎮守さまで、祭神は天照大神と国常立神の二柱を祀っており、鎌倉時代末期嘉元年間（1303～6）の創建と伝えられています。境内にある大ヒノキは幹の周囲が3.2mもあり、昭和49年（1974）に市の名木古木に指定されました。

6 山王神社



緑園三丁目にある地元の鎮守さまです。この神社の本社は比叡山山麓にある日吉大社で、大山咋神が祀られています。神社の周辺の地形は宅地開発により、すっかり変わってしまいましたが、神社は開発前から今と全く同じ場所、同じ高さに社がありました。また、境内には庚申塔、道祖神塔がひっそりと残っています。

7 相武国境の道の碑



泉区と旭区の境である緑園六丁目の角地に、昭和49年（1974）、地域の人が建てた武相国境の道の道標があります。この道標には「相武国境之道 南 相州鎌倉郡岡津村 北 武州都筑郡二俣川村」と刻まれています。この国境に沿って、古代より国境の道と呼ばれる道があり、細いながらも海と内陸部を結ぶ重要な道となっていました。

8 四季の径



緑園都市駅からこども自然公園に続く歩行者専用道路です。全体を春・夏・秋・冬のゾーンに分け、季節を彩る樹木を植え、四季にちなんだ絵タイルも施されています。各ゾーンのポイントには、三角広場、レンガタイル貼りの洒落たアーチ形陸橋、公園などが配置されています。平成元年度に横浜市まちなみ景観賞を受賞し、緑園のシンボリック存在となっています。

9 緑園須郷台公園



緑園六丁目にあり、四季の径沿いに設けられている公園です。公園内には、つたのからまるアーチ、古代ギリシャ風の円柱の立つ広場、絵タイルで星座の位置が表示された円形広場等があります。緑園都市駅までは遊歩道が続いており、安心して歩くことができます。公園から駅に向かっていくと、高台から電車が眺められるスポットもあります。

10 フェリス女学院大学・緑園キャンパス



フェリス女学院は、1870年（明治3年）にアメリカ改革派教会の宣教師メアリー・E・キダー（1834～1910）によって、キリスト教精神に基づいた日本最初の近代的女子教育機関として創設された歴史ある学校です。緑園キャンパスは、1988年（昭和63年）に開設されました。

11 インタージャンクションシティ



緑園都市駅の駅前大通り沿いにある商業街区です。建物間や内部に通抜けの通路を作ることルールとして造られた、ユニークな8つの建物から構成されています。いずれのビルも、吹き抜けや通路等を設け、光と風のふれあいのある開放感あふれる設計となっています。平成8年に横浜市まちなみ景観賞を受賞しています。

12 駅前広場の群像



緑園都市駅を中心とした、土地区画整理事業の完成を記念して、駅の東口広場に昭和62年（1987）に建てられた記念碑です。この記念碑は、台座部分が地区内の旧町名岡津町、新橋町、名瀬町の三町を表しています。人物像は、そこに住んでいた戸数46戸、約200名を表現しており、過去から現在、さらに未来へと続く都市と個人の歴史を「一筋の列」として作られたものです。

13 緑園都市駅



相鉄いずみ野線緑園都市駅は、昭和62年（1987）、新しい駅作りを推進するため、全国から「これからの駅」というキャッチフレーズで募集したアイデアをもとにつくられた駅舎です。多くの緑、明るい採光、現代建築ながら利用者をホッとさせる配慮を忘れないユニークな駅です。平成9年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれています。

ウォーキング コラム



3

健康づくりのために
今よりプラス10分
体を動かしましょう

10分多く歩くだけでも、1000歩、約20～30kcal消費できます。運動不足を解消し、メタボリックシンドロームや生活習慣病予防につながります。

<プラス10にするポイント>

- ・普段、電車やバスの区間を歩く
- ・買い物を少し遠くのスーパーマーケットまで歩く
- ・休日に家族や友人と外出を楽しみながら など

5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

地図 緑色のルート

スタート
1 いずみ中央駅 - 1 地藏原の水辺 - 2 神明社 - 3 庚申塔 - 4 横根稲荷神社 - 5 馬頭観世音塔 -

6 富士塚跡 - 芝原バス停 - 7 柏尾通り大石道 - 弥生台南公園 - 8 弥生台駅
ゴール

6 長屋門・武相国境の道コース

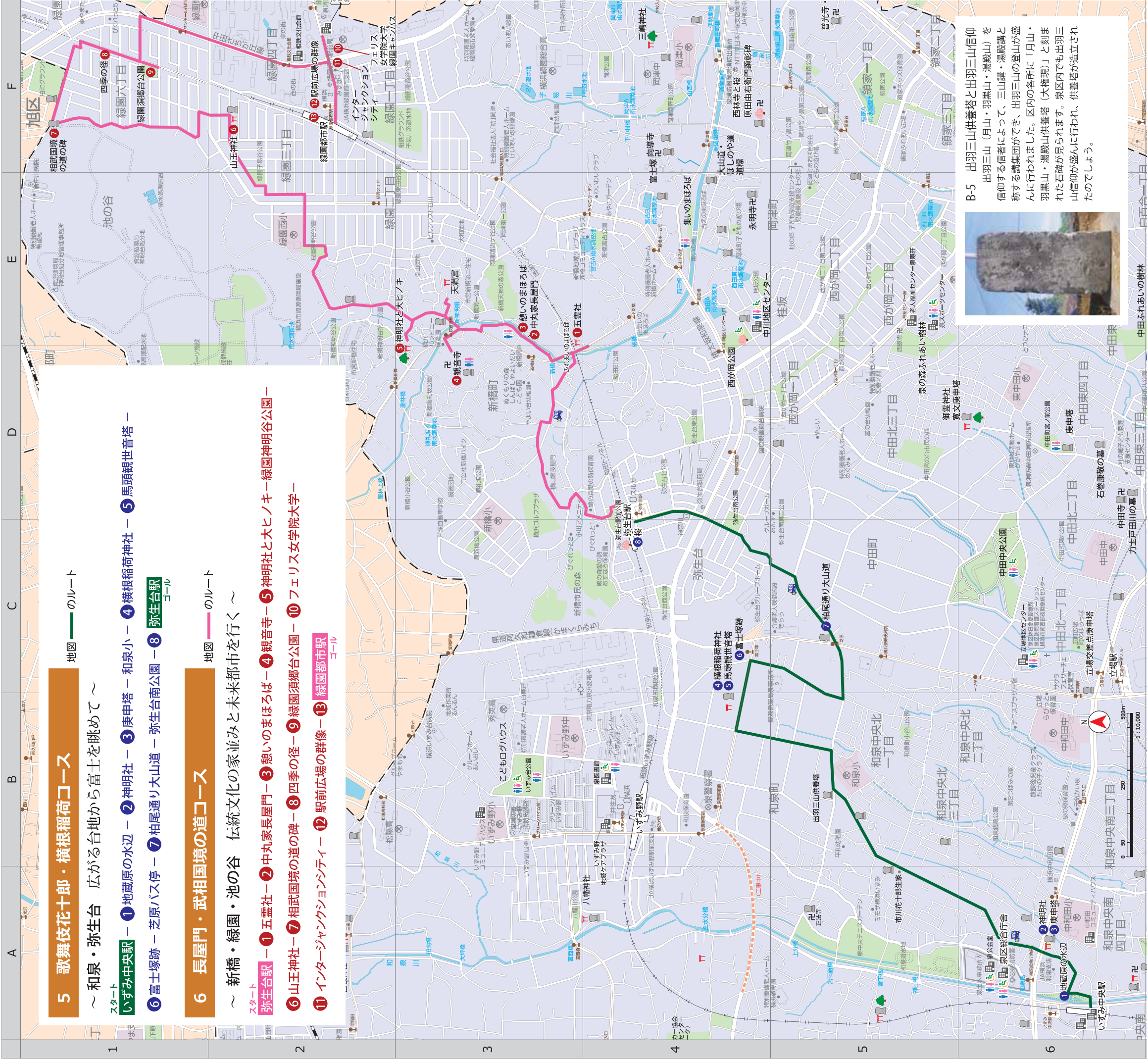
～新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く～

地図 赤色のルート

スタート
弥生台駅 - 1 五霊社 - 2 中丸家長屋門 - 3 憩いのまほろば - 4 観音寺 - 5 神明社と大ヒノキ - 緑園神明谷公園 -

6 山王神社 - 7 相武国境の道の碑 - 8 四季の径 - 9 緑園須郷台公園 - 10 フェリス女学院大学 -

11 インタージャンクションジッティ - 12 駅前広場の群像 - 13 緑園都市駅
ゴール



5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

地図 緑色のルート

スタート
1 いずみ中央駅 - 1 地藏原の水辺 - 2 神明社 - 3 庚申塔 - 4 横根稲荷神社 - 5 馬頭観世音塔 -

6 富士塚跡 - 芝原バス停 - 7 柏尾通り大石道 - 弥生台南公園 - 8 弥生台駅
ゴール

6 長屋門・武相国境の道コース

～新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く～

地図 赤色のルート

スタート
弥生台駅 - 1 五霊社 - 2 中丸家長屋門 - 3 憩いのまほろば - 4 観音寺 - 5 神明社と大ヒノキ - 緑園神明谷公園 -

6 山王神社 - 7 相武国境の道の碑 - 8 四季の径 - 9 緑園須郷台公園 - 10 フェリス女学院大学 -

11 インタージャンクションジッティ - 12 駅前広場の群像 - 13 緑園都市駅
ゴール

B-5 出羽三山供養塔と出羽三山信仰
出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）を信仰する信者によって、三山講・湯殿講と称する講集団ができ、出羽三山の登山が盛んに行われました。区内の各所に「月山・羽黒山・湯殿山供養塔（大権現）」と刻まれた石碑が見られます。泉区内でも出羽三山信仰が盛んに行われ、供養塔が造られたのでしよう。



市川花十郎と農村歌舞伎（5コース）

市川花十郎は、本名を石川芳太郎といい、義太夫を教えた竹本及太夫（石川友吉）の長男として、明治23年（1890）9月に生まれ、中和田尋常高等小学校を終えた後、16歳の頃から歌舞伎に身を投入はじめました。その後、県内を代表する農村歌舞伎「市川花十郎一座」の座長になり、区内をはじめ県内各地を興行し、たいへんな好評を博しました。42歳の時、舞台で倒れ、その後歌舞伎から身を引き、昭和37年2月22日72歳で息を引き取りました。一座で子役などを務めた花十郎の養女石川三三氏（故人）は、花十郎が使っていた衣装や道具をはじめ、義太夫語りをしていた友吉の義太夫本等を横浜市教育委員会に寄贈し、現在横浜市歴史博物館に保存されています。

～「いずみいまいむかし」～

鐘ヶ坂（6コース）

むかし、小田原の北条氏が戦に明け暮れていた頃、馬に乗った武士たちが、敵を求めて毎日さまよっていました。家という家はことごとくつぶれて、焼き払われて住む家もありませんでした。その上、せつかく育てた米や粟でさえも、十分でないうちに刈り取らなければ、どうなるか知れないという不安な日々が続いていました。そんなある日、今の新橋町給田トンネル付近で、鎧を担いだたくさんの武士たちが行儀よく並んで坂を登っ

ていきました。それが印象的だったので、誰ともなくこの坂を「鐘ヶ坂」と呼ぶようになったということです。

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

順礼坂（6コース）

むかし、順礼たちが寺から寺をまわっていたころのことです。ある女順礼が坂にさしかかったとき、向こうから阿久和の領主が馬を走らせてきました。そして女順礼に近づくと、手に入れたいばかりの新しい刀を振り上げ、試し切りをしてみました。このことを知った土地の住人・豊右衛門はかわいそうに思い、殺された女順礼をねんごろに葬ったそうです。いつしかこれを伝え聞いた村人は、この坂を「順礼坂」と呼ぶようになったと

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

泉区に伝わる 昔ばなし



横根の感念井戸（5コース）

むかし、木曾義仲の夫人、巴御前は女武者として義仲とともに勇名をさせていました。しかし、寿永3年（1184）に近江で義仲が敗れると捕われの身となり、和田義盛に引き取られて義盛の本拠地三浦で暮らすことになりました。そして建暦3年（1213）の合戦で義盛も敗れ、巴御前は木曾へと落ち延びてきました。途中、横根稲荷神社で一夜を過ごした巴御前は、境内にある鎌倉石と七沢石で囲われた古井戸の水を化粧の水として使ったと言われています。その後、この井戸は「横根の感念井戸」といわれるようになったということです。

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

